

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		移動図書館運営事業費			担当所属	中央図書館			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	1 生涯学習の推進		会計種別					
	推進施策	3 図書館サービスの充実		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	市民							
	意図	図書館サービスの地域間格差の是正・均等化を図る。							
	成果	図書館から遠隔地に居住する市民への貸出							
	手段	・移動図書館車による地域への巡回 ・学校（小規模校）への乗り入れ ・やまびこ号（平成22年7月更新） ・やまびこ号ジュニア（令和2年12月更新）							
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込	
		館外貸出利用者延べ数（移動図書館個人）		目標値	人	4900	4900	4900	4900
				実績値	人	4467	4332	4469	-
				目標達成度	%	91.2	88.4	91.2	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算		
	トータルコスト		10,403	10,088	9,886	7,580	10,582		
	事業費		4,140	3,846	3,714	4,002	4,142		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	102	0		
	一般財源		4,140	3,846	3,714	3,900	4,142		
	人件費合計		6,263	6,242	6,172	3,578	6,440		
正職員		6,263	6,242	6,172	3,578	6,440			
正職員以外		0	3,433	3,599	3,438	3,526			
(事業費集計済分)		(0)	(3,433)	(3,599)	(3,438)	(3,526)			
人員	正職員 (人)	0.85	0.85	0.85	0.50	0.90			
	正職員以外 (人)	0.00	2.00	2.00	2.00	2.00			
周辺環境	開始時の周辺環境								
	「知の拠点」として基本図書資料の整備を図るとともに、地域に密着した満足度の高い図書サービスを提供する。								
	現状の周辺環境								
評価	開始時の周辺環境								
	周辺地域の人口減少、高齢化により、利用者が減少傾向にある。								
	今後の予想される周辺環境								
周辺地域の人口減少、高齢化									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		B	図書館サービスの地域間格差の是正・均等化に必要な事業であり、妥当である。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		B					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		B					
	有効性	4. 計画の実施状況		B	新型コロナウイルス感染症対策による休館に伴い、連休とした日があったが、概ね計画通り実施できた。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度		B					
		6. 上位施策への貢献度		B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	移動図書館の巡回コースや活用方法について、見直しの余地がある。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B		移動図書館を必要としている人に継続的なサービスを提供するとともに、利用者増に向けた方策を検討する。						
改革案	今後の実施方向性	維持		移動図書館車を運行することにより、図書館サービスの地域間格差を解消し、地域での読書活動を推進する。					
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		図書館管理運営費			担当所属	中央図書館		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	1 生涯学習の推進		会計種別				
	推進施策	3 図書館サービスの充実		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市民						
	意図	地域の読書活動・生涯学習活動を推進・支援することで、利用者の満足度が向上し、利用者増加が図られる。						
	成果	・図書館利用者の増加・生涯学習の支援 ・幼児、児童の読書活動の推進 ・児童、生徒の総合学習への支援						
	手段	・市内6館の円滑な運営 ・お話し会など各種行事の運営 ・関係部局とのコラボ企画の実施						
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込
		館外貸出利用者延べ数(個人)		人	380000	380000	390000	320000
				人	318890	289049	257099	-
		目標達成度		%	83.9	76.1	65.9	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算	
	トータルコスト		140,297	212,837	212,123	222,037	220,028	
	事業費		84,300	164,734	164,926	173,741	176,025	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	237	120	10,443	10,592	10,679	
		その他	3,579	11,143	0	4	8	
	一般財源		80,484	153,471	154,483	163,145	165,338	
	人件費合計		55,997	48,103	47,197	48,296	44,003	
正職員		55,997	48,103	47,197	48,296	44,003		
正職員以外		0	42,533	43,004	50,679	53,669		
(事業費集計済分)		(0)	(42,533)	(43,004)	(50,679)	(53,669)		
人員	正職員 (人)	7.60	6.55	6.50	6.75	6.15		
	正職員以外 (人)	0.00	26.00	25.00	24.00	27.00		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	「知の拠点」として基本図書資料の整備を図るとともに、地域に密着した郷土資料など、多岐にわたる資料の収集・整理・保存・展示による活用に努め、利用者満足度の高い図書館サービスの提供を図る。							
	現状の周辺環境							
周辺環境	システムの利用により、利用者の利便性が格段に向上し、予約数は増加しているが、その対応は人的作業となるため、事務量が増加している。							
	今後の予想される周辺環境							
	徳山駅前図書館開館に伴う資料の相互利用の増加							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与(税金支出)	B	円滑な図書館運営と利用しやすい図書館づくりにつながる事業であるため、妥当である。				
		2. 事務事業の目的(対象・意図)	B					
		3. 事務事業の目標(活動指標等)	B					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	新型コロナウイルス感染症対策による休館に伴い、利用者数は減少したが、適切に管理運営し、概ね計画通り実施できた。				
		5. 目標(活動指標等)の達成度	C					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	B	事業運営の効率化について、実施事業の見直しなどを検討し、改善していく。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B	読書活動推進のために、学校図書館などとの連携を密にするとともに、読書環境の整備を図ることで、利用者の増加、満足度の向上に努める。						
改革案	今後の実施方向性	維持	利用者が満足する図書館づくりに努め、徳山駅前図書館との相乗効果で、利用者増を目指す。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果(どのような効果が期待できるか)							

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		図書館資料購入費			担当所属	中央図書館		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	1 生涯学習の推進		会計種別				
	推進施策	3 図書館サービスの充実		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市民						
	意図	利用者の多様化するニーズに対して的確に応え、利用者の満足度を向上させる。						
	成果	・利用者の増加 ・児童・生徒の総合学習への支援 ・レファレンス利用者への的確な対応						
	手段	利用者のニーズに応えるべく、新鮮で広範囲にわたる資料の収集						
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込
		資料購入点数	目標値	点	20000	20000	20000	20000
			実績値	点	22493	18853	18774	-
			目標達成度	%	112.5	94.3	93.9	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算	
	トータルコスト		44,883	56,940	46,606	44,888	44,953	
	事業費		34,199	44,822	34,625	34,513	34,578	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	59	95	0	0	0	
		その他	0	10,000	97	48	62	
	一般財源		34,140	34,727	34,528	34,465	34,516	
	人件費合計		10,684	12,118	11,981	10,375	10,375	
正職員		10,684	12,118	11,981	10,375	10,375		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	1.45	1.65	1.65	1.45	1.45		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	「知の拠点」として基本図書資料の整備を図るとともに、地域に密着した郷土資料など、多岐にわたる資料の収集・整理・保存・展示による活用にも努め、利用者満足度の高い図書館サービスを提供する。							
	現状の周辺環境							
評価	図書以外の資料（A V、電子書籍）の刊行、要望の増加							
	今後の予想される周辺環境							
	利用者の多様化するニーズに対応するため、新鮮かつ広範囲にわたる資料を収集し、歴史や文化等に関する郷土の資料の収集保存や情報提供及び人材を育成する。							
評価	評価項目		評価		評価の理由			
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		B		利用者に満足度の高い図書館サービスを提供するための事業であり、妥当である。		
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A				
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		B				
	有効性	4. 計画の実施状況		A		適正に資料選択・受入を行い、計画通り実施できた。		
		5. 目標（活動指標等）の達成度		B				
		6. 上位施策への貢献度		B				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A		限られた予算の中で資料選択・受入を実施しているため、現状では最適な手段である。		
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	B		利用者のニーズに応えるとともに、資料を有効活用するため、多種多様な資料の選択・受入を計画的に進める。					
改革案	今後の実施方向性	維持		多様化するニーズに応えるよう新鮮で広範囲にわたる資料を収集し、利用者への的確で迅速な対応を行う。				
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		図書館システム管理運営費			担当所属	中央図書館		
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～			
	基本施策	1 生涯学習の推進		会計種別				
	推進施策	3 図書館サービスの充実		実施計画		総合戦略		
事業概要	対象	市民						
	意図	資料・利用者の迅速・正確な管理、サービスの向上を図る。						
	成果	・市内6館の連携、資料貸出・返却の迅速な処理、資料の適正管理 ・利用者の適正管理、全館での返却処理 ・全館でのインターネット検索及び予約						
	手段	図書館システムの活用により、市立図書館全館の資料管理、利用者管理、資料貸出・返却事務等を迅速かつ正確に処理し、さらにインターネットの活用により利用者への情報提供や、資料検索・予約等が館内外を問わず24時間可能となる。						
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込
		予約・リクエスト資料数		件	101000	120000	120000	120000
				件	126184	122237	133117	-
		目標達成度		%	124.9	101.9	110.9	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算	
	トータルコスト		22,948	42,473	43,069	44,107	44,383	
	事業費		17,054	37,332	37,986	39,098	39,017	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		17,054	37,332	37,986	39,098	39,017	
	人件費合計		5,894	5,141	5,083	5,009	5,366	
正職員		5,894	5,141	5,083	5,009	5,366		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.80	0.70	0.70	0.70	0.75		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
周辺環境	開始時の周辺環境							
	「知の拠点」として基本図書資料の整備を図り、利用者満足度の高い図書館サービスを提供する。							
	現状の周辺環境							
周辺環境	システムの活用は、図書館運営に欠くことができないものとなっている。業務の効率化、利用者の利便性向上が期待できるICTシステムを徳山駅前図書館に導入している。							
	今後の予想される周辺環境							
	インターネット活用による利便性の向上にともなう利用者の増加。							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		B	図書館システムの活用により、業務の効率化、利用者の利便性につながる事業であり、妥当である。			
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A				
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		B				
	有効性	4. 計画の実施状況		A	図書館システムを適正に管理・運用し、計画通りに実施できた。			
		5. 目標（活動指標等）の達成度		A				
		6. 上位施策への貢献度		B				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	限られた予算の中で、システム運用を実施しており、現状では最適な手段である。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A				
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A	システムを適切に運用することで、利用者の利便性の向上、正確な情報提供を図る。						
改革案	今後の実施方向性	維持	徳山駅前図書館を含む市内6館の図書館で共通システムを運用し、利用者への迅速な対応に努める。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							

令和3年度 事務事業評価表 (令和2年度実績)

事務事業名		鹿野図書館整備事業			担当所属	中央図書館			
基本情報	分野	2 生涯学習・人権		事業期間	～				
	基本施策	1 生涯学習の推進		会計種別					
	推進施策	3 図書館サービスの充実		実施計画	該当	総合戦略			
事業概要	対象	市民							
	意図	鹿野図書館は築後25年以上経過し、施設の老朽化や空調機器の不良、雨漏り等により利用者に不便をかけている。鹿野地域の知の拠点として市民が安心して快適に利用できるような施設にするため、また維持管理を適正に行って施設の延命化をはかるため施設改修を行なう。							
	成果	安全で快適なサービスの提供が維持できる。							
	手段	鹿野図書館の施設設備改修工事							
指標	活動指標	指標名		単位	H30年度実績	H31年度実績	R2年度実績	R3年度見込	
		事業実施率		目標値	千円	0	7110	3177	0
				実績値	千円	0	5497	2695	-
				目標達成度	%	-	77.3	84.8	-
コスト	(単位：千円)		平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 予算		
	トータルコスト		0	0	6,949	4,126	0		
	事業費		0	0	5,497	2,695	0		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	4,100	2,600	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		0	0	1,397	95	0		
	人件費合計		0	0	1,452	1,431	0		
正職員		0	0	1,452	1,431	0			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.00	0.00	0.20	0.20	0.00			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
周辺環境	開始時の周辺環境								
	鹿野図書館は築後25年を経過しており、施設の老朽化により利用者に不便をかけている。								
	現状の周辺環境								
非常照明設備改修工事により照明設備の不良は解消されたが、空調機器の不良や雨漏り等により利用者に不便をかけている。									
今後の予想される周辺環境									
施設の老朽化による利用者の不便・不安の増加									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	安全で快適なサービスの提供を維持するために必要な施設の整備・改修であり、妥当である。					
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A						
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	A	計画通りに改修工事を実施できた。					
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	B						
		6. 上位施策への貢献度	B						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	計画的に改修を実施するために、手段は最適である。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	A	引き続き、安全で快適なサービスの提供を維持する。							
改革案	今後の実施方向性	維持	施設の老朽化による利用者の不便や不安を解消し、鹿野地域の知の拠点として市民が安心して快適に利用できるような維持管理を適正に行い施設の延命化をはかる。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)								